

土木系学生会創設について

土木系学生会

すでにご承知のように、新しく土木系学生会に対して本学会誌の一ページが提供され、委員会より活動報告などを2月号に掲載したのであるが、今回は、それらに対する土木関係に学んでいる学生よりの投稿の1編を取り扱うことにする。本来その目的が、土木系学生会間の知的交流を計ることと、広く実践的知識を修得することとしている関係上からも、読者諸氏のご高説、ご批判等をふるってご投稿下さるようおまちしている。

〔学生会〕

恒例の本学会関係活動は早や5回目を迎えようとしているが、学生間の親睦を深める意味で、今回は下記のように計画されている。

- | | |
|---------------|--------|
| 第5回 大学間の野球大会 | 日本大学企画 |
| 第6回 土質に関する講演会 | 東海大学企画 |
- 〔委員会〕

大学の目的

「大学は学術の中心として広く知識をさずけるとともに深く専門の学芸を教授研究し知的道徳のおよび応用的能力を展開させることを目的とする」

学校教育法 第52条

と定められている。

しかしながら学生は上の目的にかなった教育を受けているかどうかはなほ疑問である。

たとえば土木工学科の場合はその専門関係の知識のみを重要視せられ一般教養科目は授業内容が無味乾燥であるため、多くの学生が亭楽生活を送っている。

大学も学生も一般教養という名の授業を軽視しすぎている。学科の先生方は単に紙の上の成績を過大評価し、本来の教育の目的たる「人格の完成」を全く考えていない。マスプロ化した大学において多くの学生は孤独に悩んでいる。それをのがれるためマージャンなどに時間を浪費することがなんと多いことか。このような状態の中に土木系学生会が自然発生的に生まれなければならなかった。

われわれは大学に要求する。学生を単なる就職のための職業技術訓練的な教育で卒業させてしまうやり方をやめ、もっと人間教育の場としての大学に発展させるように。

われわれは大志を抱いて土木学科を選択した。われわれは単なる建設物をつくる機械の一つにすぎないところ

の技術屋でとどまってはならない。

しかしながら以上のような教育方針のため学生の多くは専門の勉強以前に就職について考えなければならない。したがって「少しでも試験によくできて紙の上の成績を向上させることに全能力を打ち込む」学生と、「大学の専門の学問に魅力を感じなくなったため」スポーツ、単なるむだ遊びに熱中する学生の二つにわかれてしまうこともまた自然の法則である土木系学生会はこのように悩める学生の集まりでもある。

学生はもちろん受身であってはならない。大学の教育方針を根本的に改め学生がより以上興味をもって土木工学の学問に打ち込めるように大学側にも反省してもらう必要があるのではなからうか。

先生方は教科書と同じことを講義し学生はそれをノートするだけという全く人間味のない教育に何の効果も期待できようか。

学会誌にも「土木技術者の質が悪い」という評論があった。私達学生もこれを素直に受け入れてよりいっそうの努力をしてこのようなことをいわれないようにする義務がある。だがその前にこの批判を生む素地が社会的風潮の中に横たわっていることを学生自身感じとすることは容易である。これを打ち破ることはたやすいことではないか、あらゆる大学の先生方ならびに学生が一体となってより以上の努力をしなければならない。

土木系学生会もこの組織をさらに強力にしてあらゆる機会を利用して学生にとって有益と考えられる、催物を時間のゆるすかぎり行なわなければならない。

残念ながら土木系学生会の趣旨が学生の間に理解されていないことは否めない。もちろん私たち役員にも責任があるかもしれない。しかし学生の消極性と学生の利益を十分に代弁していない本質的弱さと一年ごとに役員が代わる内部的弱さのためであろう。

このような弱さを克服して学生会がその本来の目的にそった活動をさらにおすすめるように学生に協力を訴えることもまた必要なことである。

都立大学 皆川 欽一

投稿その他連絡先

土木学会内 土木系学生会